

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770106785
法人名	アミコ株式会社
事業所名	いこいの守・堺
所在地	堺市中区深井北町3500番地 (電話) 072-276-3833

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年5月20日

## 【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 20 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 14.9 人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	25,200 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(280,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	26 名	男性	8 名	女性	18 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低 67 歳	最高 94 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慈心会 あびこ病院・医療法人 いぎき会 さかぐちクリニック・長尾歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

我孫子病院を母体に持ち、大阪府で福祉を広く展開するアミコが運営するグループホームの1つです。コンクリート打ちっばなしの瀟洒なつくりで外観はマンションのようですが、ホーム内は大変明るく、広いテラスもあり、ユニット毎にリビングのテーブルの配置を利用者に合わせて工夫し、利用者にとって居心地良い空間作りがなされています。職員は「笑顔・信愛・憩い」の理念の基、常に笑顔で利用者に寄り添い、コミュニケーションを取る事を大切にしています。一人ひとりの意向を聞き、希望を基に個別の買い物や外食に出掛けたり、夕食後の入浴を支援したり、重度化した利用者の対応についても職員は何でも話し合いながら前向きにケアに取り組まれています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であった、地域との交流については、地域の店を利用したり、定期的に溝掃除をしたり、職員と地域に出る事、またホームに地域の方が来てもらえる事について話し合い、出来る事から取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理、ユニットリーダーが中心となり、職員の意見を集約されています。職員は評価の意義を理解しています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、行政から堺市の財団法人の方、知見者として整骨院の先生であるケアマネジャーが参加する運営推進会議が2ヶ月に1回実施されています。会議ではホームでの行事報告の他、地域行事の情報を得たり、ボランティアの紹介をしてもらったりサービスの向上に活かす良い場となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族とのつながりを大切にされており、ホームに来られた際には出来るだけ話す機会を持ち、意見を聞けるように問いかけをしています。ホーム玄関に意見箱を設置し、運営推進会議でも意見を表せる場となっており、行事の際には次回につながるようにアンケートをとっています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しており、地域新聞で行事情報を得て、地域の夏祭りに参加しています。近隣の方に挨拶したり、ホーム裏の溝掃除を積極的に行ったり、地域のスーパー、喫茶店の利用を通して交流を図っています。また、小学校との交流を現在働きかけています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく安心して暮らしていけるように、いこいの守・塚独自の「笑顔・信愛・憩い」という理念が掲げられている。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮していくことや、役割について職員で話し合い、理念に盛り込む事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関、各ユニットの目に付くところに掲示しており、朝の申し送りや毎月の会議で話し合う際、日々のケアを行う上で理念を念頭におきながら実践に取り組んでいる。利用者とのコミュニケーションを取り、笑顔で寄り添う事を大切にしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、地域新聞で行事情報を得て、地域の夏祭りに参加している。近隣の方に挨拶したり、ホーム裏の溝掃除を積極的に行ったり、地域のスーパー、喫茶店の利用を通して交流を図っている。また、小学校との交流を現在働きかけていて、ホームに来てもらえる取り組みについて職員で話し合っている。	○	ホームに地域の方に来てもらえるようにバザーの実施等が検討されている。今後幼稚園との交流等検討事項の実現が期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題については職員と話し合い、出来る事から取り組まれている。今回の自己評価については管理者、ユニットリーダーが中心となり、職員の意見を集約されている。職員は評価の意義を理解しているが、全職員での自己評価への取り組みが充分ではない。	○	日々のケアを振り返る機会になり、ケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取り組まれることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、行政から堺市の財団法人の方、知見者として整骨院の先生であるケアマネジャーが参加する運営推進会議が2ヶ月に1回実施されている。会議ではホームでの行事報告の他、地域行事の情報を得たり、ボランティアの紹介をしてもらったりサービスの向上に活かす良い場となっている。		

いこいの守・塚

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とはホームから出向いて随時報告を行ったり、連絡、相談を行い連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームに来られた際や電話にて日頃の暮らしぶり等の報告をしている。また、家族の安心につながるように毎月、個別にケアマネジャーより健康面、日常生活、行事案内を書面にて送付し、写真や利用者の作品も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのつながりを大切にされており、ホームに来られた際には出来るだけ話す機会を持ち、意見を聞けるように問いかけをしている。ホーム玄関に意見箱を設置し、運営推進会議でも意見を表せる場となっており、行事の際には次回につながるようアンケートをとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない異動はあるが、馴染みの関係でのケアを大切にしている。管理者は職員に声掛けを行い、話し合う機会を設け離職を防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット全体での勉強会の実施や実践者研修等の外部研修に積極的に参加するようにしている。研修参加後はホーム会議等で伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年より、中区グループホームの会に参加し、勉強会の参加を通して情報交換や交流を図っている。また、近隣施設に利用者とともに人形劇を観に行き、その際にも交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホーム側から居宅に出向き、生活環境を見て、家族から情報収集をしている。入居後は家族に相談したり、ホームに多く足を運んでもらったり協力しながら馴染んでもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野や出来る事をしてもらい、野菜の切り方やお米のとき加減、洗濯物のたたみ方など教わりながら、一緒に過ごしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話から思いを聞くようにコミュニケーションを大切にしており、家族にも相談している。困難な場合については問いかけて表情を見ながら、職員間で話し合い共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用し、アセスメントを行い、利用者との日々の会話を基に記録用紙に何でも記載するようにしており、家族には来られた際に意見を聞いている。ケース会議にて話し合い、一人ひとりに添ったケアプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している。状態に変化があった場合についてはその都度見直し、変更している。センター方式も定期的に見直されている。		

いこいの守・塚

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に合わせて通院介助をしたり、個別での買い物、喫茶店、外食の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞いている。提携のクリニックや歯科の往診があり、また、その他の病院についてもホームに職員として配置されている看護師が中心となり連携出来るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合についての指針を説明し、同意を得ている。実際の対応については家族の思いを聞き、話し合い、ホームで出来る事について病院と連携しマニュアルを作成している。職員間では話し合い情報を共有しながらケアに取り組まれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	否定をしない事を徹底し、一人ひとりを見てその方に合った対応、言葉掛けを行っている。個人情報についてはリビングにある事務スペースに保管されている。パーテーションを置いて、見守りを行っているが、保管場所、方法が適切ではない。	○	利用者の個人情報については鍵の掛かる書庫で管理する事や取り扱いについて再度職員間で話し合われる事が期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースに添ったケアを心掛けており、朝食の時間、食事の場所なども希望にそって支援している。		

いこいの守・塚

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、下膳、後片付けなど出来る事を一緒に 行っている。調理風景を見れるようにテーブルやイスも 配置をしている。職員は利用者と一緒に同じ食事をし ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴、夕食後の入浴も支援しており、一人ひと りの希望に添いながら、拒否される方には声掛けやタ イミングを工夫して対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	日々の調理、洗濯物たたみなどこれまでの生活の継 続や趣味の歌やカラオケ、習字、プランターでの花づく りなど利用者が力を発揮できる場面づくりを支援してい る。ホーム内でポーリングやトランプ、ぬり絵をしたり、 気晴らしに外出をしたり楽しみ事も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している	出来るだけ外出の支援をしており、散歩やドライブ、買 い物を支援している。また、行事として花見や遠足もあ り、プラネタリウムに行ったり、人形劇を観に行ってい る。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない ケアに取り組んでいる	ホームの前が幹線道路であり、安全上、家族の同意を 得てテンキーロックがされている。利用者が外に出た い場合については一緒に出掛けるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の基、年に1回避難訓練を行っている。 また、独自で非常口の点検を頻回に行っている。6月 には救命救急講習も受ける予定であるが地域の方々 への働きかけが充分でない。	○	夜間など職員だけの誘導には限界があるため運営推進 会議で話し合ったり、地域の住人に避難訓練の参加を呼 びかけ、協力体制ができることが期待される。

いこいの守・塚

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算された献立が提供されている。食事摂取量、水分摂取量を細かく記録し、一人ひとりの把握をしている。嚥下状態に応じてきざみやとろみを付けて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品や大きめのカレンダーを掲示している。カウンターキッチンで利用者は調理風景を楽しんだり、また、離れたところで一人になれるようにソファを置いたり、テーブルやイスの配置に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に働き掛けてなるべく馴染みの物を持ってきてもらうように話をしている。居室には、花を植えたプランターを置いたり、使い慣れたテレビやイス、チェストを置いている。希望に添って畳を敷いている方もいる。		